

## 国際ビジネスの総合的研究

教授 塩澤恵理

## 1. 研究内容

国際語である英語のコミュニケーションは、今や国際ビジネスにおいて不可欠となっている。国際ビジネスの場では、通常の英会話の能力に加えより専門的な知識が求められており、自己表現がなおざりにされた高校までの英語は何の役にも立たない。

本演習では、日本語とは構造も発想も異なる英語を使い、自分の意志を正確に相手に伝えることを第一目標としている。英語を話すことが苦にならないという自信を持つためには、家庭での会話の慣習や文化的背景を理解することも必要となる。その上で、更に貿易やビジネスの商慣習や専門知識を習得してゆかねばならない。

また、ビジネスに携わる人間としては、国際経済学の理論や取引の仕組みについても、ある程度は理解しておくことが望ましい。そのため、専門的・技術的内容も折り込みながら、学生を中心にした自由な討論や活発な意見交換の場としてゆきたい。ゼミグループにおいては、仲間として心おきなく交流を深めることが大切である。従って、参加する学生には真面目な研究態度ばかりでなく、人間的な円満さやバランス感覚が求められる。

## 2. ゼミの進め方

《2年次》

教材に沿ってプレゼンテーションを行う。できる限り英語を用いて研究・勉強をすることに慣れる。ゼミ生同士の交流を深める。サブゼミ出席あり。

《3年次》

引き続き教材に沿ってプレゼンテーションを行う。奨学論文を各自（またはグループ）提出する。サブゼミ出席あり。

《4年次》

引き続き教材に沿ってプレゼンテーションを行う。奨学論文を各自（またはグループ）提出する。希望者は奨学論文の代わりに各自卒業論文を提出してもよい。サブゼミ出席あり。

## 3. 教材

(1) English for Business Studies 3<sup>rd</sup> Edition. Ian Mackenzie, Cambridge Univ. Press.

(2) 「プログレッシブ ビジネス英語辞典」 小学館

(3) International Economics. Theory and Policy.

Paul Krugman and Maurice Obstfeld, Addison-Wesley.

(4) 「新貿易取引」石田貞夫, 中村那詮著 有斐閣ビジネス

(5) 「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析—新しい理論体系を求めて—」

塩澤恵理著 明治大学社会科学研究所叢書 勁草書房

## 4. 成績評価の方法

合宿およびサブゼミを含むゼミへの貢献度や参加態度で評価する。英語の能力では評価しない。春・夏年二回の合同ゼミ合宿を含み、ゼミ活動全般に意欲的に参加する態度を評価する。

## 5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

## 6. その他・志願者へのメッセージなど

英語を道具として経済、ビジネスの諸課題を研究し、プレゼンテーションをする。